

令和 2 年度 行政評価事業別シート

実計対象		☐	評価対象	☒	新規	☐	完了事業	☐	ゼロ予算事業	☐	担当者	浅沼 俊明
全体計画					経費区分	—			内線	3529		
事務事業名		13618 空家対策事業										
所 属		200200 まちづくり推進部・まちづくり課										
施 策		06033400 安心して快適な住環境の推進										
予 算		01 一般会計										
科 目		080501 土木費・住宅費・住宅管理費										
事業		050000 空家対策事業										
事業目的						事業概要・効果						
空家等に関する対策実施のための協議会の開催。						空家等対策の推進に関する特別措置法の規定により、空家等に関する対策の実施のための協議会を設置し、空家等対策計画を策定し、計画に沿った空家対策を実施する。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
空家調査の実施	空家アンケートの実施
平成29年度 実績	平成30年度 実績
空家対策協議会の設置 3回の会議を開催 空家対策計画の策定・公表	1回の会議を開催 空家対策計画に基づく空家対策の実施
平成31年度 実績	令和 2年度 予定
1回の会議を開催予定 空家対策計画に基づく空家対策の実施	2回の会議を開催予定 空家対策計画に基づく空家対策の実施

指 標 名	無し					
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指 標 名						
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指 標 名						
算 式						単位
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度
目 標 値	目 標					
	実 績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成31年度 決 算	令和 2年度 予 算
事業費		10	72
特 定 財 源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		10	72
人 員 数 (人)	正規職員	0.1	1.0
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	726.5	7,265.0
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	726.5	7,265.0
市民一人当たりの経費		0.0	0.1
総額		736.5	7,337.0

(単位：千円)

平成31年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	10	空家等対策協議会委員報酬10

(単位：千円)

令和 2年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	0	
10節 需用費	0	
12節 委託費	0	
14節 工事請負費	0	
18節 負担金補助及び交付金	0	
その他	72	空家等対策協議会委員報酬65 普通旅費4 郵送料3

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・市が主体となり実施すべき事業か ・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか	高い
評価コメント	住民からの苦情を機に、通知文や訪問などと調査をした結果問題になっていた空家の解体などしてくれた所有者がいるため必要。	
有効性	・事業の成果は上がっているか ・目標に対する達成度は十分か ・市民生活上の課題解決に貢献しているか ・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか	有効
評価コメント	今後長年問題になっている空家は代執行等で対応していくと思われるが、草木の伐採などは通知文などで対処してもらうことが多い。	
効率性	・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・効率性向上に努めているか ・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか	変わらない
評価コメント	協議会の開催回数を1回にした。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

今までは特定空家の指定がなかったが、今後は空家の件数も増えていく可能性があるため危険な空家への代執行を考えていく必要がある。

ACTION**1次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
空家が増加傾向であり、対応は空家等対策計画に基づき進めるが、個人の財産権等から慎重に行う必要がある。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
空家等対策計画に沿って対策が必要な空家の対応を具体的に検討していく。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	